

ほうそうげ

生駒市立俵口小学校 学校だより
令和元年度 特別号

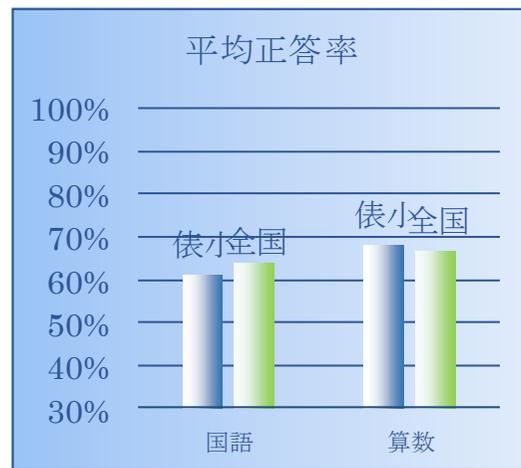


今学期も、残すところあとわずかになりました。日常の学習活動に加えて、全校での学校行事、学年での取組み、地域や関係機関のたくさんの方々に来校いただいた出前授業。仲間とさまざまな体験をした子どもたちは、心も身体も大きく成長してきました。振り返りをしっかりして、次の目標をもって歩みを進めてほしいと思っています。

全国学力・学習状況調査の結果から

本年度も4月に「全国学力・学習状況調査」(調査対象：小学6年生)が実施されました。調査科目は「国語」「算数」で、それぞれ次の(ア)と(イ)が一体的に出題されました。
(ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
(イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

本校の結果をもとに、個々の設問について、正答率が比較的高かった設問と低かった設問を明らかにし、本校児童の学力の傾向の分析をとおして、今後の教育活動に活かしていきたいと思えます。ここでは、俵口小学校の調査結果の概要を報告します。



国語



奈良県平均を上回る正答率でしたが、全国平均にはとどかない結果でした。目的や意図に応じて調べたことを報告する文章を書くことができるかをみる問題において、「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」問題では高い正答率(全国比)でしたが、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫を捉える」問題では正答率が全国を大きく下回りました。解答の選択肢の言葉から、問われている部分ではなく報告する文章全体の特徴を捉え解答したものと考えられます。自分が伝えたい情報を相手に分かりやすく伝えるためには、収集した情報の中から必要な内容を整理して書くことが必要です。校外学習などで学んだことをまとめる際にも、目的を明確にし相手意識をもって、図表やグラフの提示や記述を工夫して書くことの学習活動を重ねていきます。

また、必要な情報を得るために話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめることができるかをみる問題では、話す聞く場面としてインタビューの様子がりあげられています。「インタビューの展開にそって自分の理解を確認するための質問をする」「目的に応じて質問を工夫する」問題では、高い正答率(全国比)でした。あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って目的に応じた質問をすることが求められるインタビューの場面をしっかりと捉えていることがわかります。一方、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題では、正答率が全国を下回りました。記述式の問題形式において無解答率が高かったことは今年度調査の特徴で、奈良県の分析でも指摘されています。

漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題では、自分が書いた文章を読み直し習った漢字に書き直すという出題形式で、「調査のたいしょう」「友達にかぎらず」「かんしんをもってもらいたい」の「対象」「限らず」「関心」を解答する問題でした。正答率はいずれも全国を5ポイント以上下回る結果です。日常的に文や文章の中で適切に使うことができることは、漢字学習において大切なことです。国語科の学習に限らず日常のあらゆる場面で、学習した漢字を正しく使うこと、意識して使うことを習慣づけるようにする必要があります。学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、実際に文や文章の中で使う場面を設定したり、日常的に適切に漢字が用いられているかを確認したりすることが、大切だと考えます。

1 四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。
(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。線のひらがなを、漢字で書いていねいに書きましよう。
そこで、地いきの人三十人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。
今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にかぎらず、多くの友達に伝え、公衆電話について、かんしんをもってもらいたいと思えます。
(全国学力・学習状況調査 国語より)

※裏面に続きます

